



平成 27 年 10 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社ロジコム
 代表者名 代表取締役社長 本 庄 良 一
 (JASDAQ・コード 8938)
 問合せ先 管理部総務セクションマネージャー 中村 真一
 (TEL 042-565-2111)

業績予想の修正及び特別利益の発生に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 5 月 15 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

併せて、平成 28 年 3 月期第 2 四半期累計期間における特別利益の発生についてお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 3 月期 第 2 四半期 (累計) 及び通期業績予想の修正

(1) 平成 28 年 3 月期 第 2 四半期 (累計) 業績予想の修正

平成 28 年 3 月期 第 2 四半期 (累計) 連結業績予想数値の修正 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	3,400	400	90	△20	△8 円 45 銭
今回修正予想 (B)	3,391	151	△208	718	303 円 52 銭
増減額 (B - A)	△8	△248	△298	738	
増減率 (%)	△0.3	△62.2	—	—	
【ご参考】前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 3 月期第 2 四半期)	3,081	86	△13	△13	△5 円 64 銭

平成 28 年 3 月期 第 2 四半期 (累計) 個別業績予想数値の修正 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	2,400	60	△10	△50	△21 円 12 銭
今回修正予想 (B)	2,434	72	22	23	9 円 75 銭
増減額 (B - A)	34	12	32	73	
増減率 (%)	1.4	21.2	—	—	
【ご参考】前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 3 月期第 2 四半期)	2,537	106	58	41	17 円 66 銭

(2) 平成 28 年 3 月期 通期業績予想の修正

平成 28 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	7,200	1,000	300	—	—
今回修正予想 (B)	6,500	500	△250	1,000	422 円 32 銭
増減額 (B - A)	△700	△500	△550	—	
増減率 (%)	△9.7	△50.0	—	—	
【ご参考】前期実績 (平成 27 年 3 月期)	6,486	363	33	321	135 円 73 銭

平成 28 年 3 月期 通期個別業績予想数値の修正 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	4,900	100	50	20	8 円 45 銭
今回修正予想 (B)	4,900	100	10	400	168 円 93 銭
増減額 (B - A)	0	0	△40	380	
増減率 (%)	0.0	0.0	△80.0	—	
【ご参考】前期実績 (平成 27 年 3 月期)	5,093	241	180	107	45 円 31 銭

(注) 2015 年度(第 24 期)より会計方針の変更を行っており、上記各表の【ご参考】平成 27 年 3 月期第 2 四半期及び通期の実績は、遡及修正適用後の数値で記載しております。

2. 修正の理由

(1) 平成 28 年 3 月期 第 2 四半期 (累計)

当第 2 四半期累計期間におきましては、個別業績は予想通りに推移いたしました。

不動産売却に伴う経費や売却損失の発生は生じたものの、不動産ファンド関連事業における匿名組合投資の配当利益、米国子会社の解散に伴う清算配当等により、全ての利益数値において予想を上回り、マイナス予想であった経常利益及び四半期純利益についても黒字となる見通しです。

連結につきましては、子会社各社の業績は概ね予想通りに推移し、売上高はほぼ予想通りとなる見通しですが、一部不動産ファンド案件における損益の見積もり違い、上期における不動産ファンド案件の仕入れが計画未達成であったこと等により、営業利益が予想を大きく下回る見込みであり、不動産ファンド案件における物件取得資金の借入金のノンリコースローンへの切替え (以下、ノンリコース化) により見込んでいなかった費用等の発生により、経常利益が予想を大きく下回る見込みです。しかしながら、米国子会社による固定資産売却益及び不動産ファンド案件のノンリコース化に際しての固定資産売却益が寄与し、親会社株主に帰属する四半期純利益は予想を大きく上回る見通しです。

(2) 平成 28 年 3 月期 通期

個別につきましては、下期に取引を予定しております不動産売買案件による経費及び売却益の発生が見込まれることにより、経常利益は前回予想を下回る半面、当期純利益は前回予想を大きく上回る見込みです。

連結につきましては、当社グループの新規事業である不動産ファンド関連事業の第 2 四半期累計期間の取り組み状況、業績等を鑑みると、売上高は前回の予想数値を大きく下回る見込みであり、大幅な下方修正をいたしております。また、同様の再精査及び下期における既存不動産ファンド案件のノンリコース切替えの売却時の経費についても見直すことにより、営業利益及び経常利益は当初予想を大きく下回る見込みとなりました。しかしながら、親会社株主に帰属する当期純利益は、下期の不動産ファンド案件の売却益の発生や個別の通期業績予想を反映し、当初予想を大きく上回り 1,000 百万円となる見込みです。

3. 特別利益の発生について

平成 27 年 8 月 17 日付け「連結子会社の解散に関するお知らせ」で公表いたしました連結子会社である SJ Almaden II, Inc. の解散手続きに伴い、前述の通り、為替換算調整勘定の取崩しにより特別利益 49 百万円を、平成 28 年 3 月期 第 2 四半期において計上することとなりました。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後のさまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上